

創立 1980年10月8日



ROTARY CLUB OF SAKAI NORTH

第2640地区 堺北ロータリークラブ週報

事務所 〒590-0024 堺市堺区向陵中町2丁5-10 杉本ビル5-B・Tel: (072) 255-1200 番

例会日 毎週金曜日 午後0時30分

例会場 PANTARON Tel: (072) 228-3988 番 (魚太郎直通電話)

URL : <http://www.sakai-kita.jp/>

E-mail : snrc@jasmine.ocn.ne.jp

ガバナー(第2640地区) 久保治雄(クボ ハルオ)

ガバナー事務所 URL : <http://www.rid2640g.org/kubo/>

E-mail : kubo-2013@rid2640.org

会長: 城岡陽志 幹事: 中川 澄 広報委員長: 池田茂雄 編集者: 綿谷伸一

四つのテスト 言行はこれに照らしてから 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

本日の例会

2014年2月14日(金)第1603回

「第2回クラブアッセンブリー」

各委員会委員長

今週の歌「我等の生業」

「寒い朝」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○皆出席表彰(2月度)

中田 学会員(第11回)

今週の歌「寒い朝」

北風吹きぬく 寒い朝も
心ひとつで 暖くなる
清らかに咲いた 可憐な花を
みどりの髪にかざして今日も あ～あ～
北風の中に きこうよ春を
北風の中に きこうよ春を

次回の例会

2014年2月21日(金)第1604回

卓話「未定」

卓話者 畑中 一辰 会員

前回例会の報告

2014年2月7日(金)第1602回

卓話 「国際奉仕月間」

卓話者 宇瀬 治夫 国際奉仕委員長

今週の歌「君が代」「奉仕の理想」

「バースディソング」

お客様の紹介

出席報告・会長の時間

委員会報告・幹事報告・SAA報告

○会員・奥様誕生祝い(2月度)

山中喜八郎会員(7日)

藤永 誉会員(14日)

池永隆昭会員(14日) 辰 正博会員(23日)

池田茂雄会員(26日) 笹山 恭子様(2日)

○結婚記念祝い(2月度)

該当者なし

<2月7日(金)の出席報告>

会員数(会員31名・準会員1名)	32名
出席会員	24名
出席準会員	1名
欠席会員	7名
ゲスト	1名
ビジター	1名

12月13日(金)の出席率 78.12%



2013-14年度 国際ロータリーのテーマ

ロータリーを 実践し みんなに豊かな人生を

ENGAGE ROTARY CHANGE LIVES

国際ロータリー会長 ロンD.バートン(ノーマン・ロータリークラブ)

「国際奉仕月間」

国際奉仕委員長 宇瀬 治夫



国際奉仕委員会の奉仕活動

1) 国際理解 2) 親善 3) 平和

第一次大戦中の1917年頃より米国やカナダ、ヨーロッパのロータリークラブが各地の避難民や傷病兵、復員してくる軍人に対するボランティア活動や物資援助を行うなど歴史的背景を受けて、「奉仕の理想に結ばれた、事業と専門職務に携わる人および地域社会のリーダーの世界的親交によって、国際間の理解と親善と平和を推進する」という国際奉仕の概念が、1922年に綱領の第6項目として正式に明文化され現在に至っています。1917年、6人目の国際ロータリー会長アーチクランフが「基金を作り、世界的規模で慈善・教育・その他社会奉仕の分野で何か良い事をしよう」とアトランタ国際大会で提案しました。この基金が発展し、1928年ロータリー財団と名づけられ、国際ロータリーから独立した別機関となりました。

教育的プログラム、人道的補助プログラム、特別プログラムの三種類があります。

WCSの活動（世界社会奉仕活動）

世界社会奉仕活動は、英語ではWorld Community Serviceと記され、WCS活動と称されています。国や行政が地域社会のニーズを満たせない発展途上国や開発途上国で、ロータリークラブも資金の制約等で奉仕活動が実践できない場合に、援助を海外の地区やクラブに求め、協力して奉仕活動を行うのが世界社会奉仕活動です。

タイのロータリークラブから、歴史的に人身売買が繰り返される北部の貧しい地域で、子供達の教育支援というプロジェクトへ支援要請がきました。子供達が健康で、しっかり学業に専念できるよう、本年度で第4回目を迎えます。現地のホスト・クラブ（スリオンRC）と堺北RC当地区のフレンドリークラブ（美原RC）と共に、山岳民族で学校まで数キロの道のりを通う子供達に日本の中古自転車と、学校で安心して飲める清潔な水を提供する浄水器設置、以前にはコンピューターも設置いたしました。また現地のホスト・クラブは地域の公立校約80校の水質調査を実施し、協力してマッチング・グラントを申請、中古自転車と貯水タンクや浄水器を60校あまりの学校に寄贈しました。贈呈式には全ての協力クラブの会員が参加し、子供達と共においしい水を味わい、自転車による通学が楽しいという嬉しい声も聞きました。

奉仕活動を通じて援助される側だけでなく、奉仕に参加した私達も感動を覚えました。



国際的な会合としては、ロータリアンは国際大会を始めとするロータリーの国際的な会合に積極的に参加し、国際レベルで友情や親睦を深めることが推奨されています。

堺北RC姉妹クラブ

第3690地区南仁川ロータリークラブと1988年姉妹クラブ締結以来、諸先輩方が親交を深めてまいりましたが、近年に入り言葉の問題等色々な条件が、重なり残念ですが姉妹クラブ継続はされておられません。

今後、新たに姉妹クラブ締結には大きな決断が必要だと思われます。

GSEの奉仕活動

2010年度、韓国3720地区からのGSE受入の実施に際しては、堺北RC於いては、ホスト先2家庭、堀畑会員・田中会員あるいは3日間ずつで2家庭にホームステイの実施。又GSE 団長を始め団員を夜間例会に迎え異文化交流の実施を行い相互に理解と親交を深めました。

団長 徳川朴哲(トクチョンパクチュル)

団員 趙太熙(チョウテヒ)・金亨沫(キムヒョンス)・金江玉(キムカンオク)
李仁南(イインナム)

会長の時間

会長 城岡 陽志



先週は夜間例会という変化にとんだ企画で楽しい例会をしていただき、委員会のメンバーの方々は、ご苦労さまでした。マンネリ打破のためには有意義でした。

今日はタバコの話をする。

当社の幹部社員が去年中国にて心筋梗塞で倒れた話はしましたが、先週また別の幹部が心筋梗塞で倒れました。危うく一命を落とすところでした。原因ははっきりしませんが医学的に考えられるのは、ストレスやタバコなどは間違いなく原因であります。

二人ともヘビースモーカーでした。私も心筋梗塞で倒れており、早速会社の喫煙場所を廃止し、禁煙を呼びかけました。我々の仲間だった故白木会員・松岡会員もヘビースモーカーでした。これを機会にみなさん禁煙をしろとは言いませんが減煙しませんか？

タバコは百害あって一利なしです。

S A A 報告

新井茂文会員 SCKで障害者とうまく対応する方法を勉強しました。
その時目の障害の方のお金の見分け方を教えてもらいました。
千円・五千円・一万円。

嶽盛和三会員 先週の夜間例会、楽しく過ごさせていただきました。
坂上さんもお招待頂き有難うございます！

澤井久和会員 もしかして、例会場今年初めてかも。
遅いですが、本年もよろしくです。

藤永 誉会員 先週お休み頂き有難うございました。

笹山悦夫会員 素敵なバースディ花束有難うございました。妻もビックリして、感激して

いました。
村上強志会員 宇瀬会員本日の卓話楽しみにしています。

合計 16,000円

幹事報告

- (1) 今週の配布物
 - ・週報
 - ・ロータリー財団領収書
- (2) 幹事報告
本日例会終了後理事会を開催致しますので理事・役員の皆様はお集まり頂きますようお願い致します。
- (3) 他クラブ例会変更のお知らせ
 - ・堺泉ヶ丘ロータリークラブ
2月25日(火)→2月23日(日)10時から
於：泉ヶ丘駅噴水広場
「手に手つなごう」東日本復興支援プログラム
 - ・堺東南ロータリークラブ
2月27日(木)→2月24日(月)10時から
東陶器保育所にてふれあい巡業
 - ・堺フラワーロータリークラブ
2月22日(土)→同日11:30～
大阪千代田RCと合同「いちご狩り」例会
場所：和泉体験農園
 - 3月8日(土)→3月9日(日)「内川・土居川清掃活動」移動例会

その他

第8回 定例理事会

2013-2014 年度理事会構成メンバー

城岡、山ノ内、綿谷、中川、藤永、國井、那須、中田、山中、坂田、宇瀬、徳田、

辰、塩見 (計14名中10名出席で理事会成立)

日時 2014年2月7日(金) 例会後
場所 「PANTARON」 会議室

議案

1. 意義ある業績賞申請の件 ー申請しない
2. 相談役会幹事を理事会オブザーバーとする件 ー承認
3. 地区の件～会長会議報告等
1人5000円の協力金は、強制徴収ではなく、各人の自由意思による個人寄付金として扱う
4. その他
事務局 勤務体系変更について ー承認

「私は一人の女の子」 マララさんの思い

美しく汚れなき理想郷、タリバーンの支配下へ

ここは、パキスタン北部、カシミール地方とカイバル峠の間にあるスワート渓谷。かつては、行政長官ミアングル・アブドゥル・ハック・ジェハンゼブの管理下に置かれ、豊かさや平和に満ちた生活が営まれていました。ジェハンゼブは近代化を進め、男女両方に開かれた学校を建設、自動車では行くことができない遠隔地にも行政の手を行き届けました。「雲を突き抜けるように山がそびえる、美しく汚れなき理想郷。人びとは、この地をシャングリラ（伝説の理想郷）と呼びました」



そう振り返るのは、ジェハンゼブの孫娘であるゼブ・ジラニさんです。地元の人びとから、今でも「プリンセス・ゼブ」と呼ばれます。小さい頃に緑色に輝く石で遊んだ思い出を偲ぶジラニさん、かつては家族が所有する鉱山でエメラルドが採れたそうです。しかし、1969年、スワート地方の主権はパキスタン政府に渡り、同地方は下降線をたどることになります。さらに、2008年にはタリバーン政権が台頭し、その後の2年間、人びとは厳格なイスラム法によって支配される生活を強いられました。政治的に敵とみなされた者は拘束され、斬首刑や鞭打ちの刑に処された人もいました。公開処刑が行われ、女性への暴力が横行し、学校も破壊されました。ジラニさんは1979年、生活の場を米国へと移しました。その後毎年1度帰国していますが、生まれ故郷が侵略される様を目にするのはとても辛いと話します。エメラルド鉱山から得た財産もなくなってしまいました。しかし彼女は、一から集めたお金で学校を建設し、スワートからの難民のためにシェルターと薬品を提供、さらに、スワート地方に初のロータリークラブを創設しました。

教育への思い

クラブへの入会を呼びかけた最初の人たちの中に、教育者で活動家でもあるジアウディン・ユスフザイさんという人がいました。彼の娘は、今や世界の人となった、マララ・ユスフザイさんです。

15歳のとき、既に優等生として一目置かれる存在だったマララさん。青い制服を着て、科学、数学、イスラム教育、英語、ウルドゥ語の授業を受ける一方で、パシュトゥ語の詩から冒険物語にいたる幅広い書物を読んでいました。ウルドゥ語で書かれた彼女のブログには、パキスタン軍とタリバーンの争いや、上空で大きな音をあげる武装ヘリコプターなど、タリバーンの影響下に置かれた生活に関する記述がありました。また、不足する書物、自分の夢、お気に入りのピンクの服、そして教育を受けられない日がある可能性などについて、彼女の思いが刻々と綴られていました。ある日のブログには、次のようなメッセージが書かれています。

「タリバーンが、女子の学校教育を禁止する法令を出しました」

「私は教育を受けます。私たちは全世界をお願いします。私たちの学校を、スワートの地を守ってください」

ブログでは、グル・マカイというパキスタン民謡の英雄の名を使用し、本名を名乗ることはできませんでした。

マララさんの父親も、スワートの伝統を守ることに力を入れていました。パキスタン政府が同地域での統制を部分的に取り戻した後の2010年、彼が所属するミンゴラ・スワート・ロータリークラブ主催の音楽イベントの準備に加わっていました。タリバーンの台頭後では初めての音楽行事だったため、ロータリアンは皆、イベントの開催を強く誇りに感じていました。「まだタリバーンの影響下にあったので、開催には大きな勇気が必要とされた」と、彼は振り返ります。

「脅しや暗殺が頻繁に起きていたため、何が起るか分かりませんでした。でも、結果的に素晴らしいイベントにすることができました」

マララさんを襲った悲劇

2012年10月のある日、ジアウディン・ユスフザイさんは、総勢300名以上の校長・教師が集まった全人教育の推進キャンペーンに参加していました。ロータリー仲間のアーマドさんに続いて演壇に上がったとき、一本の電話が入りました。「私はアーマドさんに電話を取ってもらいました。すると彼が私の耳元で、娘が通う学校のバスが襲撃されたことを告げました。目の前が真っ暗になりました。マララが標的とされたにちがいないと感じたからです。場内には私を呼ぶアナウンスが流れ、額には汗が流れていました。6分間の演説を終えるとアーマドさんがやってきて、病院に直行するよう私に言ったのです」

被害者は、マララさんでした。スクールバスで帰宅中、銃をもった男が車中に押し入り、どの生徒がマララさんかを教えないと全員を殺すと脅したのです。恐怖に駆られた生徒たちは、マララさんの方を見つめるほかありませんでした。男は銃口をマララさんの頭に向け、至近距離から発砲しました。

事件から6日後、戦争被害者の治療を専門とする英国バーミンガムの病院に搬送されたマララさんは、そこで昏睡状態から目覚めました。「どの国に私はいるのですか？」とマララさんは尋ねたそうです。謙虚に振る舞いつつ、彼女は毅然として述べました。「タリバーンは私を殺そうと思ったことでしょう。でも、そうはさせません」父親には「安心して」と声をかけ、ジラニさんには「人びとを助けようとする私のことを、きっと神様が守ってくれる」と述べました。

希望を新たに

2013年3月、マララさんは、英国で2番目のパキスタン人口を抱えるバーミンガム市内の学校に通学し始めました。グリーンセーターに身を包み、ピンクのカバンを背負ったマララさんは、頭の中に埋め込まれたチタン製プレートと、補聴器が左耳に付いていることを除けば、普通の女の子と何ら変わりはありません。「私は一人の女の子に過ぎない」と彼女は言います。英国での勉学を開始したマララさんは、最初に、すべての子どもの教育を受ける権利を訴える署名活動を行いました。父親は、ゴードン・ブラウン国連世界教育特使（元英国首相）の諮問役となりました。マララさんは、世界中の人が知る存在となりましたが、心の中には常に、故郷に再び繁栄の日が訪れることへの希望が宿っています。ジラニさんは、スワート地方への物資提供を通じて、地道な支援活動を続けています。「マララさんに起こったことは本当に恐ろしいことです。しかし、これによって世界が彼女に耳を傾けることになりました。きっと、彼女の目標を支える大きな力となるでしょう。いつの日か故郷へと戻り、私たちの活動が生み出した変化を知ってもらえたらいいと感じています」故郷に変化をもたらすこと、これはマララさんにとっても同じ願いです。彼女の父親は、今回の事件を振り返りながら、いつか故郷に帰ることを望んでいます。「私たちの故郷、スワート渓谷に帰る日のことを夢見ています。そしたら、マララにもロータリーに参加してもらいます」

記事：Kevin Cook 本稿は、「ザ・ロータリアン」誌2014年1月号からの抜粋です。